明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可　（日刊）　月曜日及大祭日の翌日休刊　明治四十四年二月十日　（金曜日）　第六百卅三號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金[illegible]▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金[illegible]一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜報

森安博士講演（二）
（總督府醫院に於ける博士）

此人の治政の時代の事で即ち五百四十二年に大流行が起りました此人は非常に宏大な家屋を建築したり或は戰爭好きの人でありまして歴史を繙けば已に御承知の通りコンスタンチノープルに二十五所の寺を建てたので今でも其寺が殘つて居ります而して世界中の尤も立派な建築として名高い建築物となつて居るのでございます丁度此時分に流行したのでございます此時は何ふ云ふ風に流行して來たかと云ふのに始めは埃及から（此時埃及は羅馬の領地であつたから）即ち下埃及から出て來たのであります、夫れより亞弗利加の北の海岸に廣がり次にエルサレム即ち亞細亞の土耳古だと云ふ處を犯しまして地中海の東岸を通りまして「コンスタンチノープル」から小亞細亞及び「トルコ」を經て歐羅巴の方に擴んで行つたのでございます、夫れから歐羅巴の方では五百五十年から五百六十年頃には非常に蔓延して苟も人類の住んで居るところは至る處に擴がつたのでございます、それであ滅まするからして町にせよ村にせよ今迄繁華であつた處は安々ペストが流行して大多數は其犠牲となり生き殘りし者は他方に遁れるといふ有樣で其土地は荒漠たる原野となり猛獸の棲家となりましたので其位非常の惨害を極めたのでございます此以來と云ふものはペストが歐羅巴に根據を占めてそれからと云ふものは時々流行が起つたのでございます殊に最も流行したのは十四世紀であります併し其時分のペストと申しますのは今から考へて見ますと云ふと單純のもので無くて今我々が申述べる處のペストの外に病氣を含むでいたらしい、併しペストと云ふ病氣もあつたに相違ないが其外病痛であるとか腸窒扶斯等の病氣をも混同して居つたやうにも考へられる、兎に角ペストに付いて稍々確なる記載が出たのは即ち紀元後で有ます、二世紀から、三世紀にかけてさう云ふ記載がありました、けれども其時分には未だ記載が幼稚であつた而已ならず餘り多く記載した處の書物が無かつたのでございます、最も確に最も多く書き記されたのは六世紀の頃で即ち紀元後五百四十二年に非常に大流行があつたのでございます、此大流行があつた時はどふ云ふ時であつたかと云ふと「ユスチニアン」第一世の時であります此方は羅馬の天子でありまして紀元後四百八十三年からして五百六十五年まで生きて居られた（谷岡速記）

●誤解されし鑛業行政

總督府の鑛業行政に就き内地各新聞は頻りに誤報を傳へ甚しきは既願の書類は全部却下し更に將來は殆んど厳禁的方針を執るべし杯記載せるものあり然れども斯かる事は萬々有るべからざる事に屬し現に當局者の机上には依然として數百の出願書類存在し日々其處理に忙殺せられ居れり思ふに鑛區に關する出願は先願者に許可するを以て原則とせるより同一鑛區に對し數名の出願あるも悉く却下せられたる例あり而して斯る出願頗る多きを以て斯くは誤解されしものならんといふ

●内地炭輸入

ペスト患者發生の爲撫順炭坑に一部採炭中止の止むなきに至れるより滿州各地共同炭の拂底を見るに到り大連港に九州炭の輸入續々あり二日のみにても五艘分前後約一萬噸に及び爲めに防疫隊檢疫より揚荷せる分も少なからずと

●平北の織物と農產

平安北道に於ける織物として世に知られたるは明紬、白布、麻布にして其產出額は明紬六萬四千九百六十五圓白布十一萬六千五百三十七圓麻布四萬七千二百二十九圓台計二十二萬八千七百三十一圓なり次に平北道廳に於て最近の調査に係る道内の耕地面積は田三万六千八百六十八町歩畑二十八千四百四十八町歩にして農產物收穫高左の如し

米	一九九、四〇二石	稗	一〇六、八〇四
麥	三三、三三八	蜀黍	三、八〇四
大豆	一〇六、二五六	蕎麥	二九、九八二
小豆	五〇、四〇一	綠豆	二、二三六
粟	二七五、三三一	大麻	一七一、五六六
玉蜀黍	一〇一、四七四	棉花	一五五、四九九
荏	一、九七七	煙草	一八二、三七二貫

●上海入港制限

上海稅關にてはペスト流行地より來る船舶は出帆の日より六日を經たるものにあらざれば同港に入港することを得ざる旨大連稅關へ通知ありたりと

●度量衡と既定計畫

併合以前制定せられたる度量衡法は依然總督府に繼承し又同時に發布せられたる統監府の對内地人度量衡規則も其儘効力を有し相並むで現に施行中なるが聞く處によれば併合後と雖も日鮮人の狀態は直ちに同一法規の下に律し難き事情あり故に當分此儘に置かるべし而して元韓政府農商工部に於て計劃せる普及方針も其必要往時と異ならざれば所謂既定計劃は新年度に入るも何等變更せざる筈なりと云ふ

俳句

●漢陽吟社發句集（上）

芳詠五十章甲乙逆列　花儒園選

- 汁かけて飯の味もつ蜆かな　梧竹
- 雪解の音すさまじき深山哉　壽鶴
- 鶯を聞て〳〵流す筏かな　岡人
- 時來れば月寒けれど梅の花　徳女
- 黄鳥の啼く音に憂を忘れ鳧　朝月
- 鶯や隣りに鳴はこなたにも　鈍蛙
- 花も香も昔かはらす城の梅　如眠
- 雪解や其日〳〵のまはり道　牛韓
- 乳母車おすや片手に奴凧　西都
- 踏とまる橋に香るや溪の梅　一考
- 月かゝる軒に匂ふや梅一枝　紫水
- かた言の黄鳥もあり藪の中　如眠
- 我凧を村一番と言はれけり　朝松
- 雪解やよごれて戻る馬の腹　西都
- 病む親の藥の代や蜆掘り　朝松
- 黄鳥や植木をいぢる庭の主　梁水
- 朝景色みな黄鳥にもたれ鳧　牛韓
- 梅咲や顔なでらるゝ石の牛　西都
- 孝子には後で聞きけり蜆賣　其月
- 梅に來て日を暮たる小鳥哉　悟竹
- 雪解や訪ふ人もなき山の家　朝松

山中鹿之助
七十六回　西尾麟慶演

將軍義輝公よりの助勢に陸路を播州に發向いたします、海路よりは尼子四郎勝久、山中鹿之助幸盛、五月早苗之助、高祖殿之助、明家庵之助、大谷古猪之助、かゝる處へ横道兵庫之助ト全快をして、此の噂さを承はり、未だ全く病癒せざるも押へども、藪中茨之助、助けられて、龍宮より來り、鹿之助に對面いたし、茨之助を推擧いたしました、コヽデ對面をゆるして、彼が剛膽なるところの魂ひあるをいふことを見破つて股肱の臣下といたしました、[illegible]茨之助も此の國勢に加はり、[illegible]より船を浮べて是に打ち乘り、攝州灘を跡に致して海上つゝがなく日を追ふて西須磨に碇泊いたしました、密に容子を窺ひ上月の城代たる寺本生死之助に氣脈を通じ、時の來るを相待ち居ります、然るに翻よ明日出船と云ふ折柄に、一艘の小船此方を指して漕ぎよります、此方の船頭徳藏といへる者此の有樣を見て、大ひに怒り 徳「何奴なれば汝當船を窺ふぞ」と聲をかければ彼の小舟の船頭は 船「然やう當船内に居らるゝ人々に對面いたしたし、吾等は仔細あつて姓名は名乘れぬ、去れども分それと見拔て乘り越したり」と云ふ此の人物一見ナカ〳〵逞しく、船頭徳藏も心の内に、扨は此奴尼子九郎左衛門の廻し者ならん、爰は此處等あたりの漁夫と見ゆれど、その實は尼子九郎左衛門の廻し者に疑ひなし、よし其の儀ならば、此奴を擒へて我も恩賞に預るべし、此度の首途に軍役をも勤めん」と心の内に思ひましたもことはり此の船頭徳藏も以前は大友の家臣でありまして、由緒ただしき者で御座ひます、徳藏聲あらゝげて 徳「コリヤヤイ曲者、當船は俺等が預りのだ、此の船に斷はりもなく乘ると云ふは不埒な奴、何れから來りしか、眞直に云へ」と怒鳴つた、スルと彼の小舟の漁夫も 漁「ヤーチヨコサイなり汝船頭等の知る處にあらず、我等は龍宮より來りしなり」之を聞て徳藏大口あけて笑ひました、徳「アナ愚かなり、龍宮より來りしとは何事なるぞ、ソンナ白痴た事を云はず、何れから來りしか眞直に云へ」漁「汝如きものに物云ふ俺ぢやアねエ、龍宮より來たものだ奥の大將に對面するのだ」と云ふより早く奥座敷にいたしてある艫櫓の下の一室に亂れ入らんとするを 徳「ヤア其の儀ならば捨て置には相成らん、覺悟しろ」漁「何を小癪な云ふにやれよぶ覺悟せよとは不禮の一言」徳「無禮きは其方の事だ」漁「何を小癪と」、拳をあげて打たんとなす 徳「不敵な奴だ」と徳藏も拳を堅め漁夫の頭上を目懸けて打てば彼方は打れまじと體を躱す、ヤー面倒なりと組つき暫し相爭ふ物音に驚ひて勝久公始め鹿之助一同夫れへ出で來りました、此時に兩人とも中々の剛力でありますから、組で居りましたが何時解れて跡へ下り舳におりましたる百貫目もあらふと云ふ碇を徳藏が取るより早く、エイと掛げて投げつけんと爲すを、彼の漁夫は左うはさせじと飛び込んで、徳藏の手を押へ碇を奪ひ取るより見る間に一と振り振て毛綱のついて居ります大碇を海中へ投げ込みました、徳藏も彼の大力に驚きました鹿之助は大陽わかる朝ぼらけで彼の漁夫體の男を見れば何んぞ圖らんや早川鮎之助でありますから 鹿「ヤヽ汝は早川ならずや」と云ふ聲に鮎之助も 早「オヽ鹿之助君にて候らふか」、之を承はつたる横道、明家、高橋等も驚ひて、不思議の對面船頭徳藏も呆氣に取られた、爰で鮎之助は兩手をつかへ 早「不思議にも御大將始め此處に於て、御一同に拜顔いたしまする自分の喜びといふものはいかばかり、お別れ申してより以來、一と通りお話し申すべし」と、座をなはつて再び辭をつぎ 早「何時ぞや崖殿の御殿より死に失せた見苦しの死体を、惡人どもの手に踏み汚されまじと思ふの一心より、遂に海に投じて生死も知れずなりました處へ、此の時に呼び活るものあり、見れば不思議な一ツの磯ばたに大勢の漁夫に介抱を受けまして、蘇生いたしました。

東京電報（九日）

●皇室財産令施行　昨年十一月發布の皇室財産令施行に關し宮內省關係各部局は施行準備委員を設くる事となり[illegible]御料地全般の管理を爲す爲め主殿寮林野管理局には[illegible]委員に任命したり

●皇室財産會議　山縣[illegible]相大寺侍從長土方、田中兩伯及小[illegible]宮內省關係各部局長等は十日午前十時より宮內大臣官邸に於て皇室財産令其他重要問題に付て會議を開けり

●竹田宮御昇任　陸軍騎兵大尉[illegible]一等竹田宮恒久王殿下は來る十一日紀元節の佳辰を以て騎兵少佐に御昇任あらせらる由

●桂寺內兩相伏奏　桂首相寺內陸相は本日相前後して參內し御前に伺候して何事か伏奏する所ありたり

●特別會計可決　四十四年度特別會計[illegible]豫算[illegible]本日の本會議に於て[illegible]可決す

●上院と商法改正案　貴族院委員會に於ける商法改正案の修正箇條は目下岡野敬次郞氏等の手に依りて[illegible]中なるが脫稿次第更に委員會に附し[illegible]特別委員會に報告[illegible]順序なりと

●東郷大將元帥たらむ　東郷海軍大將は今回渡英に先立ち元帥に陞進さるべし

●政友會と總豫算　政友會は總豫算に就ては大體に於て協贊を與へ[illegible]政府の答辯如何に依りては[illegible]

●在監人費等復活　在監人費及[illegible]維新史編纂費は何れも復活したり

伯林電報（九日）

▲獨帝の遊航　獨逸皇帝及皇后は二月下旬伊國ベニスより例年の如く地中海遊航の途に上らせられ又例に依りてコルフを訪問せらると

▲獨乙銀行の利下　獨乙帝國銀行は割引日歩を四分五厘に引下げたり

▲土耳其外省出火　土耳其國外務省より出火したるも幸に本館は救助せられたり。

●ペストに非ず　▼南川に於ける患者　昨紙所報南川に發生せる怪しき患者は一時ペストなりと唱されしが右視察の爲め[illegible]せる三浦中尉及び宮尾軍醫よりの電報によれば現患者は診察の結果三名中の二名は室扶斯一名は肺炎なると認定[illegible]も室扶斯なるを確認したれば念の爲め器材料を蒐集師檢鏡試驗を試みたるもペスト菌は發見せずと

●海港檢疫の状況　朝鮮內海港檢疫の状況に就て有賀關稅課長の談を聞くに滿洲にペスト猖獗以來其勢力此れが防備に盡し滿洲、北淸地方より入港する船舶に對し各港灣に臨[illegible]醫師をして嚴重なる檢疫を[illegible]が例のジャンクに對しては一層嚴重なる監視を爲し居るが都合良きは時下結氷期に際し居るを以て平安北道鎭南浦沿岸の[illegible]ず而して各開港場に於ては[illegible]運搬を保ち、船客船貨は必ず特別指定の地に於てのみ上陸せしめ又人夫[illegible]ものをして運搬せしめ[illegible]船には十日間の停船を命じ居れり尤も停船十日と[illegible]きもの〻如く唯大阪[illegible]多少航海數を減じたる[illegible]一般貿易業は彼等自[illegible]の防疫方針に贊成し居[illegible]り故に濟州貿易業に[illegible]なるべく仁川其[illegible]船はなる[illegible]都合なり而して群山[illegible]し居れり因に今回防疫[illegible]用は總額十七万圓の豫算なりと云ふ

●咸南の國境嚴戒　咸鏡南道惠山鎭新加坡鎭はペスト病毒地と交通頻繁なるべきを以て防疫本部はこれが交通取締りの必要を認め昨八日咸鏡南道警務部長に命じ防疫地に於て從來實行し來れる警務總監部令第二號第四號を一層勵行せしむる爲め同地に檢疫を開始し江岸監視人を募集配置し又支那苦力の入國を拒絶するの外爾餘の旅行者は國境に於て總て五日間の停留を實行せしむる事となりたり

●醫業規則の發布　從來韓國政府及統監府に於て發布したる朝鮮の醫師規則中日韓合邦と共に種々改正を要すべき點あるに就き內務部衛生課に於ては目下該改正規則の草案中なるが脫稿までには多少の時日を要すべきにより發布までは猶ほ數月を要すべしと

●漁業法案審議會　過般來審議立案中なりし朝鮮に施行すべき改正漁業法案は所報の如く其の全部を終了したるを以て愈々九日午前十時より農商工部に於て菊池殖產局長庵原水產課長渡邊生田の各書記官以下數名列席し同法案の審議會を開きたるが同法案は多分今明日中に總督府に回付さるべしと云ふ

●朝鮮郵便規則　九日朝鮮總督府令第九號乃至第十五號を以て朝鮮に施行すべき郵便規則、鐵道船舶郵便規則、通常郵便物市內特別取扱規則、特許審判書類特別取扱郵便規則、郵便物包裝規則、郵便切手類記號規則、私製葉書製式規則等發表されたるが鐵道規則は何れも本年三月一日より施行すべし

●東拓漁場問題　長崎、佐賀、福岡、熊本の四縣聯合漁業者の內昨年平安北道漁場に下網したるものは非常の不漁を見たるより關係縣は東洋拓殖會社並に朝鮮總督府に向ひ善後策の交涉を試みつゝあるのみならず去月下旬鹿兒島市に開會せる韓海水產研究會に於ても東洋拓殖會社の共有する諸漁場權を全然取消すべき樣總督府に向け請願する事を決議する所ありたるは既報せしが其の後東拓にては西島技師をして長崎縣及び佐賀縣の當局者につき善後策協議せしめ夫より熊本福岡に趣き同樣の協議を遂げしむる事と爲りたるが右は要するに如上の請願決議に關し本年度の漁業前に關係縣と妥協を爲し以つて該請願運動を中止せしめんとするに在るべしと尙ほ同技師が四縣當局者の意向を纏めて歸社したる上更に日を期して其代表者と京城其他適宜の場所に會合し今後に對する協定を開始する手筈なりと

●大日本勸業募株不況　本同社大阪に於ける二万株の募集は六日限り締切りたるが頃日來一般に會社の前途を悲觀する者多く同日中北濱、鴻池、浪速、百卅、三井、第一の各取扱銀行とも應募申込數極めて僅少にて不況に終り發起人中にも引受責任上醵金を拂込みたるもの多少ありしも大半は確定株の權利を放棄したる模樣なり

●漁業創立總會　安藤謙介氏の創立委員長たる韓海漁業株式會社は一月二十二日より三十一日迄第一回株金即ち一株に付十二圓五十錢の拂込を爲さしめたるに東京地方共に滯りなく拂込に應じたるを以て來る十九日創立總會を開くに決定したりと

●棉花會社募株景況　和田、日比谷、田村、佐久間、田邊、柿沼氏等の發起に係る棉花栽培會社には事業の性質上充分株主を選擇するの必要ありとなし公衆募集を避けて紡績關係者其他有力なる人々に持株の勸誘を試みつゝある由なるが現在迄の申込株數既に滿株（十萬株）に達せんとするの盛況を致し尙は續々增加の模樣なれば一應關西方面を勸誘したる上直ちに申込を締切り株式の割當を行ふ筈なり

●師團交替に就て　近頃內地新聞及び朝鮮に於ける各新聞の東京電報に朝鮮駐箚第二師團は本年四月を以て廣島第五師團と交替すべしと傳へられつゝある爲め師團に關係あるものは種々の計畫等あるより何れも其眞否を訝り殆んど誤裡夢中に彷徨し居れるが右は全く事實咀唔せしものにして第二師團は決して本年四月に交替すること無く一方滿洲守備の任に當り居れる第十一師團は本年四月を以て滿二ヶ年の駐屯期限に達し既に其交替期に當れるに依り目下夫れ〳〵歸還の準備中なる由にして第二師團にては來る四月を以て故兵と交替すべき新兵の輸送計畫を爲しつゝあり旁右朝鮮駐箚師團の交替說は既に事實無根なること明かなりといへり

●一月の京城稅關　一月中に於ける京城稅關出張所取扱に係る貿易額を聞くに輸出及移出額一万二千六百四十圓にして輸入及移入額四十一萬一千八百四十九圓なりと

●天一銀行の改稱　株式會社大韓天一銀行は來る二月十一日より朝鮮商業銀行と改稱することになりたり因に從來天一銀行として取引したる契約類は當然朝鮮商業銀行に於て繼續するものとす

●商銀出張所新設　別項天一銀行の改稱朝鮮商業銀行は二月十一日より本町六丁目に出張所を新設する由也

●一月の京城金融　京城一月中に於ける各銀行金銀出納高を聞くに左の如し（京城商業會議所調）

▲日本人側三銀行即ち第一、百三十、第十八の各銀行

▲預金　三百九十八万九千三百四十圓　前日に比し一萬三千二百十圓減

▲貸金　三百四十五萬三千六百六圓　前月に比し七萬四千七十三圓を增

▲金銀出納　支拂一千三百三十四萬四千二百五十六圓　前月に比し五百三十五万千百九十七圓減　受入一千三百二十三萬六千七百三十七圓　前月に比し五百六十萬四百五十六圓減

▲朝鮮側五銀行　即ち韓銀天一農工漢城韓一の各銀行

▲預金　四百三十九万五千百六十四圓　前月に比し十三萬七千七百九十三圓減

▲貸金　四百二十四萬二千五百七十二圓　前月に比し十一萬三千百四十一圓減

▲金銀出納高　拂渡二千九百〇一萬二千二百八十五圓　前月に比し千六百二十五萬九千六百二十五圓減　受入二千九百〇二萬九千九百九圓　前月に比し一千六百二十五万六千三百十三圓減

●森安博士の講演（三）　▲ペスト豫防心得▼

此時に始めて黑死病と云ふ名が醫者のみならず詩人であるとか歷史家等に唱へられ一般人民の間に於て非常に恐るべき傳染病であると云ふ事が知れ渡つたのであります此時にも矢張餘程蔓延したやうに言はれて居る、大略二千五百萬人計り其爲めに犧牲に供せられた其當時『ヘッケル』と云ふ人の統計では其當時の世界の人々の四分の一が犧牲にされたといふことでありますから非常に大流行を極めたのでございます此十四世紀に大流行したもとは何處から出たものであるか其時分でありますから想像でありますかは知りませぬがヒマラヤ山の部落印度のガンヂス河の近邊から段々擴がつて行つたものだそうです、それから以後十五世紀、十六世紀、十七世紀の中頃までは始終歐羅巴の方にペストがあつて一年として彼等の頭を持ち上げないことは無かつたのでございます、ところが十七世紀の中頃から歐羅巴の東南の方に退却して十八世紀に至りましてはバルガン半島の方に根底を作り此處に時々流行して居りました、十九世紀になりましてからは土耳古の若斯坦丁、露西亞のアストラバンヂのみ現はれそれから十九世紀の中頃から以後と云ふものは歐羅巴には殆ど其の根據を絕つた樣でございます、翻つて亞細亞は何うかと云ふに無論十四世紀頃に支那及印度ガンヂス河が本元と云ふ事がありましたから以前からあつたに違ひない、けれども西洋人の目から見ると最も信用するところの記載がなかつた、確實の記載があつたのは十八世紀と十九世紀に涉つたのでございます、其時分には亞刺比亞、コウカシン、アルメニンからペルシャ小亞細亞等に多く流行を來たして居つたそうであります、其外無論印度であるとか支那であるとかは以前より大に流行したに違ひありませんが然し之れが分つたのはそう古いことではありませぬ兎に角此印度なり支那が病源地であるやうに言ふて居りましたがどう云ふ點から目を附けたかと云ふことは愛に時々大流行を來たす故にどうしても巢窟が無ければならぬと云ふ事から熱心なる研究の結果によつて終に分かつたのである、然らば何處であるかと云ふに之はヒマラヤ山の南麓にある兎に角言ひ換へて見ますとヒマラヤ山の周圍にペストの巢窟があると云ふことが分つた、それで二十世紀からと云ふものはペストの流行は歐羅巴には殆ど根を絕つたからして亞細亞に獨り舞台でペストが大ひに勢力を伸はしたのであります、併しペストの病源地は其後に至つて全世界に四箇處あると云ふことになつた、それではどこ〳〵であるか、第一は失張西藏のヒマラヤ山の東南の部落第一に此處で流行があると常に漸次香港に大流行を來たしたのであります、即香港に大流行をする時にはヒマラヤ山の南東が原因であります、明治二十七年に香港で大流行を致した事がありまする其時分には日本からも命を受けて青山、北里の兩博士が出かけられたのでございます、第二はヒマラヤ山の西の麓の部落であつて、此處には始終あるが少し頭を持上げて來ると印度の孟買に必ず流行を來たすのである、第三は何處であるか即ち中央亞剌比亞の沙漠の中で此處から流行すれば常に小亞細亞の方へ行くか或はペルシャ、サマルカント及黑海の方に蔓延を來たした、第四の根據地は何處か之れは明治三十一年に彼の有名な今は故人となられました『ロベルトコッホ』から發見せられましたので亞弗利加の內地で『ナイル』河の水源であります

●王家のペスト講話　十日午前十時より昌德宮に於て山根囑託森安博士はペストに關する一場の講話を開演する筈にて當日は李王同妃殿下にも出場御聽聞さるゝは勿論閔長官小宮次官を始め各王族貴族等も聽講し右終りて正午李王殿下には午餐の饗應を給はるべしと

●仁川民會議長　仁川民會第一回は八日午後七時民團樓上に於て開會し議長選擧を擧行し出席議員十七名にて開票の結果稻田氏十二票奥田三票樋口一票淺井一票にて議長は稻田氏に副議長は奥川氏と決定せり

●京城民會　京城民團には來る十日午後一時より改選後の第一回民會を開くことは既報したるが開會に先ち議席の抽籤を行ひ夫れより議長及會計檢查役を選擧する由

●小學校拜賀式　十一日の紀元節には民團立小學校櫻井日出南大門の三校は午前十時卅分より龍山小學校は同午前十時より拜賀式を擧行すべき筈なり

●宇佐美長官歸任　內務部長官宇佐美勝夫氏が七日東京を出發せること既報の如くなる處愈々九日午後八時十分南大門驛着列車にて歸任する筈にして深尾庶務課長等南大門驛に出迎へべし

●補正　昨紙百三十支店長異動と題する記事中●●當地出張所長伊藤謙太郞氏●●●●●とありしは鎭南浦出張所長に就き補正

●暴徒逮捕の賞詞　今回賊徒の逮捕に功勞ありし憲兵伍長及上等兵三名は藥師川憲兵隊長より夫れ〳〵賞詞を與へられたるが其人名及び功勞の事蹟を揭ぐれば左の如し

▲賊魁を捕へし大神伍長　楊州憲兵分隊釜谷下里分遣所伍長大神市次郞は一月十六日補助員二名を從へ搜索出勤中賊魁宋炳台と出會し發砲して我に抗するにも拘はらず遂に之れを逮捕せり

▲賊二名を斃す　同釜谷下里分遣所上等兵門松喜二は一月二十八日同憲兵上等兵鶴田鎭能及補助員二名と共に出動し賊徒と衝突し鶴田上等兵は敵の爲めに大腿部に貫通銃創を負ひしもものともせず門松上等兵等を激勵し一方門松上等兵は賊中に斬り込みて賊魁金吉東外二名を殪し更に銃器彈藥其他雜品を鹵獲し兩上等兵共賞詞を受けたり

▲彈雨の中に賊魁と格鬪す　驪州憲兵分隊憲兵上等兵鹿野甚之助は一月二十一日補助員二名を從へて賊徒を追及し驪州康川面梨洞に於て賊三名と衝突し附近前後より數回の射擊を受けたるも屈せず彈雨の中を猛進して其首魁に組み付きたるに賊は首魁を救はんとして格鬪中の上等兵を狙擊せしも上等兵は更に屈せず遂に賊魁金海奉を叩き据ゑて捕縛し、其携帶せる銃一挺、彈藥十一發を鹵獲したる壯烈の行動を賞されたるが鹿野上等兵は宮城縣栗川郡長岡村荒谷出身なりと

公人私人

△谷井恭吉（東拓調查役）八日東京へ
△石崎篤太郞（憲兵中尉）同入京山本
△須藤素（全北財務部長）同上不知火
△永野廣（長崎遠洋漁業團理事）同山本

▲仁川港の出入船舶▼

▲山陽丸　十日大阪より入港
▲群山丸　同　大阪へ向出港
▲音羽丸　同　大阪へ向出港

▲京城兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客　八日の分
乘車客　八三八　下車客　五七七
乘車賃金　一〇四五、七三

▲南大門驛荷扱高　八日の分
發送　三〇噸　到着　三五四噸
貨物賃金　六八八、四三

▲龍山驛の乘降客　八日の分
乘車客　一四六　下車客　一六七
乘車賃金　一九七、八四

▲龍山驛の荷扱高　八日の分
發送　三噸　到着　三四六噸
貨物賃金　二七五、八九

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
二月九日	七九、三九四、〇二	三七一

▲治外法權▼

併合後第一の紀元節が愈明日となつた、此大節に於て我京城進明が御眞影拜賀式を行ひ、只り役人のみならず、一般日鮮人民の拜賀を許すのは結構な事だ▲誰に曰く百聞は一見に若かずと、移住內地人も、ソウだが、特に新附の鮮人をして毎大節に於て陛下の御英姿に親み得るやうにさせたいものだ、英姿を拜し、英風を想ふ之れ新附の赤子が帝德に浴する所以であるのだ▲大阪朝日新聞が最近に於て東拓に補助會社の稱號を贈つた、トコロが職人は補助に加ふるにオタマヂヤクシなる稱號を贈つた、補助とオタマ、ドッチも頭大足小と云ふ點だ▲英國の議院では今度皇帝の玉座の側へ殖民地代表官の座席を設けたソウだ、殖民地代表官の厚遇、我議會の如きも見倣つたら良からう▲仁川の監獄は事小に似て實は時代の變遷を語るものだ、昔の被告加來及び其の他は嘗つて納涼などゝ稱し大官と遊樂船とを舟に乘せ白晝公然と仁川港內を練廻したものだ▲威勢燃んに神祟らず、仁川大部分の人士は大官と加來等との暴狀に對し怨を呑んでダマッて居た、時勢轉換天日は仁川を照すことゝなつた、今迄怨を呑んで居た仁川の人士は暴狀者の末路を弔ふことゝなつた▲聞く寺內總督は意を仁川の築港に用ゆと、而らば今後同港の人士は良く新政を解し、築港の恩惠に浴して未來の繁榮を計るべしだ▲只り仁川のみならず、本國にも釜山にも否な我京城にも其他の地にも加來等の樣な性質の惡い古い小成金があるのだ、之等の徒は公使館時代も統監府時代も將た今の總督府時代も同じ事と思つて居る▲禍なるかな小成金汝等は時代を解せざるが爲めに社會の害物となり、生存競爭の敗者となりて滅びるのであるのだ、さらば小成金の輩よ、汝等が改心するは實に今だ▲京城民會の議長は倉海津らしい、彼れ有德、人に長たるに適す、豈に彼れが警備將校たるに因るのみならんやだ。

▲相場電報　明治町西村支店着電

▲大阪株式（三月限）（後場）

本坂同　六五、六〇〇　六四、八〇〇
電鐵同　六五、九〇〇　六四、九〇〇
大坂同　六九、二〇〇　六九、〇〇〇

▲大坂同　株式同　同直同　[illegible]

[illegible]六錢▲止十一錢▲四月寄二十六錢▲止同上[illegible]二月寄二十二錢▲止二五十錢▲最高五十四錢▲最低四十八錢
●九日前場二、三月出來不申▲四月寄十圓十九錢▲最高五十三錢▲最低四十[illegible]九錢▲止同上

[illegible]が同主計正の後任として來任すべき松浦三等主計正は八日夜着龍せり
▲[illegible]

▲神戸寄 電線引 三九、七〇 三九、五〇 三九、二〇 三九、一〇

▲東京同 ▲新同 出來不申

▲大阪期米 ●八日前場二月止十五圓五錢▲三月止十八錢▲四月止三十一錢▲後場二月寄

▲仁川米豆取引 ●八日後場一月出來不申▲三月寄十七錢▲最高低、止同上▲四月寄十圓

●師團主計正着任 第二師團經理部安主計正は近々赴任の途に上る筈なる

●三島韓銀理事歸行 東上中なりし韓銀理事三島太郎氏は本日夜歸行したり

活動寫眞　覆面子

九日 朝の南大門驛

明け渡る南山の一角には冬枯れの松にかゝる朝日が美はしい、ヨボが頬張る四錢の栗餅は果敢なき汗に得た錢の香が添るやうだ。

療腹を擽る栗餅寒暑し停車場の亞鉛葺は朝日を帯びて光り低い軒よりは淡く水蒸氣が立つ。

待合室には、山本旅館の烏羽と書した手提籠や三日月旅館の内山様と書したカバン等がある

手荷物扱所の棚上には、筑前八幡町桑原行京城黄金町相澤自轉車店出の小行李や、横濱市南太田町近藤誠三郎とか田原虎太郎とかの名刺ある行李か見へた。

正四位勲二等石塚英藏氏三本の金線帽は晴れた日光に冴へて堂々たるスタイルは美事だ。

一本二本の文官は續々として見送りの爲めに來た、折しも來かゝる二枝の解語の花は誰れとか送る、明眸皓齒の艶かさ茶色と薄小豆の羽織スラりと萬綠叢中紅二點の異彩を放つて。

●●●午前九時、釜山行の列車は、世に時めき玉ふ官人を乗せて靜かに離れて更に●●●同九時十分、新義州行列車も一條の黒烟を捲曳かせて進み去つた。

驛前二輛の護謨輪は轍も輕く、二點の花を拉して街の彼方に消へた。

京城醫會の暴慢

▽六〇六號に就て

驅黴新藥「六〇六號」の發見は、人類界の一大福音であるが此の價格が更らに低廉であつたならば一層の福音であるのだ、而してれ醫者様方として何んとか方法を講じて安く此の藥の恩惠に浴せしむることを研究せらるゝが當局の急務であるのだ然るに頃日不思議な聲を耳にする、京城醫會にては最初此の注射料を三十圓中受くる事に申合はせた、が其の中の或る人は種々研究の結果二十圓でも出來ると云ふので之れを發表した、或る人は人數さへあれば十圓でも出來ると發表した、或る人は必ずしも入院するには及ばぬ注射後の療養は自宅で充分出來ると發表したものがある、誠に六〇六號の威力を一層强からしむる發表であるのに之れを知つた醫會の多數者は之れを以て申合せに背く行動として責め最初の申合せ通り三十圓ならでは施療に應せざらしむ可く且つ入院せでは療養叶はざる如に聲言せしむべく種々なる妨害を特志家に向つて試みつゝあると云ふことである、果して然らば斯る奴輩は之れ實に國家人道の敵である、滿州に追ひ遣つてペストの餌食にして総ふべしである、が之れ恐らくは事實であるまい、イヤ虛說であらねばならぬ、とは云へ道途傳ふる万分の一も事實があるとすれば由々しき大事であるから監督官は宜しく其の實否を取調べられて發見者の苦心に酬ゆる爲めに國家民人の幸福の爲めに盡るべき所あらんことを望む

●捕鼠奬勵戰

▽北部管内の大活動

ペスト豫防に根本的必要なる捕鼠買上の開始せられし以來各署の買上數報導せらるゝに至りしより各警察署に於て競爭的に奬勵し其の成績日に增し良好なるが中にも西大門分署の成績は群を拔くものあるにぞ監督署長鈴木警視は之れを以て一に同署員の奮勵に依るものなりとし他の彼警署に向ひ西大門分署を稱揚して督勵する所ありて西大門分署長安藤警部東大門分署長小牟田警部何れも鹿兒島氣質を發揮して必死の指揮振り勇ましきを見たる北部署の岡本巡査部長は熊本氣質を發揮し西大門分署の久保田巡査部長は鹿兒島氣質を發揮しての働き振り目覺しく競爭甚だ激烈にして彼の議員選擧の激戰の如くなり然るに龍山方面の成績不良なる理由を聞けば龍山警察署員の一人は鼠が居らぬからと語りしが或は奬勵の足らぬにはなきやと疑はる而して八日買上數東大門分署五百三西大門分署四百十二北部署四百六南部署二百五水門洞分署百五十四銅峴分署百三十一龍山警察署二十二同憲兵分隊十八匹

●醉一世那翁

仁川花房町一丁目飲食店金杉清次郎方へ八日午後九時頃一人の外人來りて酒を飲み六十錢の勘定なるに二十錢銀貨一個を置き其儘立去りたるより金杉は直ちに後を追ひ行きしに外人は仁川驛の驛長室に入りて勝手なる放言を爲し居たるも酩酊し居る事とて程よく過ひ返さんとせしも中々動かず尚ほも弄辯居る處へ金杉が來りて酒代の不足を請求せしに懷中より一圓の紙幣を出し此處は室內故外にて渡さんとて室を出で上着を拔ぐより早く金杉に打て掛り双方掴合を初めしを以て警官取鎭め酒代を仕拂しめ姓名を尋ねしにナポレヲン第二世と答へて本名を言はず酩酊し居る故己を得ず山口屋へ宿泊せしめ翌朝醉の醒めし上取調べんとしたるに早朝に同宿を立出で姓名を聞きしも言語不通の爲め本名不名なるも英國人に相違なき由困つた奈破翁殿かな

歌留多會場變更

來る十一日正午より永樂町派出所前濱崎氏方にて開催の筈なりし京龍有志合併歌留多會は都合に依り大和町三丁目通信局官舍內倶樂部に變更せられたり

●乘合馬車許可

去月十九日附權藤善太郎氏より出願せる京城市內乘合馬車營業の件は去七日其筋より許可されたり尚ほ車体六臺馬四頭等は檢査に合格し又馭者鮮人八名馬丁鮮人六名とも假免許證を下附されたれば不遠營業を開始するに到るべしと

●高女校の母姉會

本月一日より京城民團立高等女學校に母姉會擧行せらるゝ由は既報の如くなるが毎日十五六人以上來會者ありて午前九時應接室に於て校長受持教員と各人別に學校家庭上に關する談話を爲し終りて各學級の授業を參觀し居れる由なれば豫定の如く圓滿に終る可しと三浦校長は語れり

●懲役　西小門外柳澤要作方大分縣人角庄平(二三)中の新地石垣榮太郎方鹿兒島縣人望月庄太郎等が太平町二丁目料理店永樂亭に屢々登樓脅迫或は亂暴して南部署に檢擧されし事は既報の如くなるが該事件は八日京城地方裁判所に於て庄平は懲役二年庄太郎は一年六ケ月に處せらる

●宮本齋伯の來遊　幼にして齋名を四方に馳せ作て英皇甥コンノート殿下我國へ御來遊の際御殿場の富士を寫生奉献して多大の恩賞に浴し今や我が國に於ける畫の大家として名聲嘖々たる同齋伯は今回趙重應子の歡招に依り十二日頃入京暫時滯京の上浴く同好諸氏の爲め揮毫に應ずる由なり

●傳奕　熊本縣天草郡登立村本郷當時本町九丁目農業和田さの(三七)長崎縣南彼杵郡仁田村當時本町九丁目井手やゑ(三六)熊本縣天草郡登立村淵ヶ浦當時本町十丁目淵川てる(三一)の三名は八日午後十時頃和田さの方に於て金錢を賭し博奕を爲し銅峴分署に檢擧され取調中

●違犯　京都府代田郡筒川村當時大平町二丁目二十五番戸下宿屋大平館大泉きよ(三一)は下宿屋取締規則違犯にて告發され銅峴分署に於て取調中

●仁川の小火　七日午後六時十五分仁川牛角洞耶蘇教會と仁明學校の中間に新築中なる米國人ミルマン氏の家屋警請小屋より發火したるを常備消防夫駈付け大事に至らず消止めたり

●詐欺　北部署水門洞五統四戶輿當業張兌鎭(三一)は北部齋洞徐夫人なる者より金數千圓を詐取し北部署に檢擧され檢事局に送らる

●ボヤ　明治町三丁目朝鮮人人力車駐車場の屋根より煙の立つを同町派出所巡査發見消火を命じ大事に至らずして鎭火せりと

●仁川鼠買上數　八日の買上數は百六十一頭四圓八十三錢

●松林伯知　當地壽座に開演中なりし松林伯知一行は八日を以て打揚げ九日仁川竹園館に乘込み花々敷開演の由

仁川商店めぐり　萬石町　吉金酒店

仁川本町四丁目吉金酒店主は壹三郎氏とて嘗て高杉貿易店の支配人たりしが感ずる處あり朝鮮に於ける淸酒釀造業の有望なるを思ひ立ち去る明治三十九年獨立して斯業を企劃し萬石町に醸造場を設け最初三百石を試釀し昨四十三年には六百八十石本年は更に八百石に增釀するの盛況に至れりと最も原料の撰擇は斯界の主眼にして米質は通津米が酒質に最も適當なれば更に通津米を使用し醸造法に改良を施したれば酒名益々老正宗の如きは朝鮮內各地に於ける醸造酒に比し一等地を抜けりとは世己に定評あり又平生は價格廉にして販路頗る大に至れりとは以て同店主の手腕其の宜敷を得たりと云ふべし

●演藝だより

●京城座　相變らず好評を博し居る兄弟義團十日の藝題は拾小舟全八幕十三段返しにて大詰具大仕掛け尙配役は白河御前(岩村)靜枝(堀江)笹部圖七(吉井)紅雪(松澤)妹梅子(塚本)平多中尉(小泉)永谷銀吉(藤澤)

●歌舞伎座　初日より好人氣大入なりし東京大坂男女合同劇一座十日の替り狂言は肥後の駒下駄全七場にて配役は中川鐵之助(寶川正三郎)月岡娘れい(市川紐司)松田秀之丞(中村鯉舛)夢の惣次、中川妻(淺吉)一水五郎八月岡(尾の吉)れい(鶴子)八坂源內和尙)八阪源次兵衞(花笑)向井善九郎(坂東鶴二郎)

●浪花館　人氣澤山なる大坂女義太夫越之助一座十日の語り物は御祝儀寶入舟(入登)朝顔日記(濱助)忠臣藏三段目裏門の場(越濱)先代萩御殿(若太)鏡山又助住家の段(土佐濱)大功記尼ヶ崎の段(源八)四ッ谷怪談伊右衞門住家(高助)御所櫻辨慶上使(越子)まげ卷助六大文字屋之助)忠臣藏七段目(掛合)三味線鶴越澤大三竹本三越

◀平民文壇▶

▲當地に於ける興行物は全体に不廉だ屋右衞門、如雲、小圓等のチョンガレになると一圓、若しくは一圓五十錢ととる、猿芝居に毛の生へた如な芝居でさへ一晩見るには七十錢要る段々改良せられて然るべしだ(注告生)▲太刀山梅と高見の引き分けを面白からずとなど兩國の取組を好取組なりとする人はす人だ(角力狂)▲度支部〇〇所の小使取締谷川と云ふ男は一切借りたものを拂はん主義だと云ふ、一適證を擧げれば西小門通りの宮城野と云ふ小料理店から三月程前に取つた料理代金六圓餘を未だに支拂はぬ催促に行けば此所は役所だと頭から叱り飛ばす相だ▲其癖食ふのは役所でも食べたのだ相だ▲貸金のある人に叱り飛ばされる奴の意氣地なさは然ることながら借りた金の拂へぬ奴の意氣地なさは又格別だ(横睨役人)▲夫れが爲めでも有るまいがアノ店は閉めたよ(小僧)▲產婆仲間のゴタゴタも見苦しいものだ要するに工藤武城と云ふ醫者が出娑婆るに起因するらしい而して工藤は產婆の品性を高尙ならしむる爲めから產婆會を監督すると云ふのだ品性の陶冶へへ御自分から先きへ(產婆)▲氣候も漸く春めいて來た囀る鳥の聲も長閑だ(嬉しい生)

第十期營業報告

自明治四十三年七月一日 至同年十二月三十一日

負債

科目	金額
資本金	壹五〇、〇〇〇・〇〇〇
政府貸下金	貳八六、六〇〇・〇〇〇
貨幣整理資金貸下金	參、〇〇〇・〇〇〇
積立金	四二、〇〇〇・〇〇〇
別途積立金	九、五〇〇・〇〇〇
建物消却積立金	四、五〇〇・〇〇〇
未拂配當金	壹七・壹〇〇
寄託品競賣金	四六・參壹
未達勘定	參、四壹五・〇壹
借入金	貳〇、〇〇〇・〇〇〇
當座借越	貳壹、七五六・參〇
前期繰越金	六、貳七五・〇貳
當期純益金	參、〇參八・壹參
合計	五五〇、壹四七・八七

資産

科目	金額
未拂納株金	九〇、四五〇・〇〇〇
貸付金	壹五七、〇六七・〇〇六
割引手形	七四、六參六・〇〇〇
有價證券	五、八〇五・〇〇〇
任金	六、參壹五・八五
保稅貨物取扱資金	壹、參貳貳・〇〇
建物	參參、參五八・參五
倉庫	壹貳四、七貳壹・四貳
土地	壹貳、九四五・〇六
什器	四、參四貳・五參
滯貨整理勘定	壹六、八壹四・貳壹
與執流込物件	壹壹、五〇九・〇〇
保證金	參、參貳・八五
假拂金	參、九壹七・參四
金銀在高	六、六壹壹・貳〇
合計	五五〇、壹四七・八七

損益勘定

一金貳万壹千九百貳十七圓九十貳錢　當期總益金
一金六千貳百七十五圓〇貳錢　前期推移金
合計金貳萬八千貳百貳圓九十四錢也
內
一金壹萬八千八百八十九圓七十九錢　當期總損金
差引金九千參百十參圓十五錢　當期利益金

利益分配左ノ如シ

一金九千參百十參圓十五錢也　分配金額
內
一金壹千圓　積立金
一金五百圓　建物消却積立金
一金壹千圓　別途積立金
一金壹千八百〇九圓(年壹割貳分)　株主配當金
一金四百六十五圓　任員賞與金
一金四千五百參十九圓十五錢　後期繰越金

明治四十三年十二月三十一日

漢城共同倉庫株式會社

社長 趙鎭泰
理事 崔思永
理事 成文永
支配人 林慶太郎

前記各項ヲ調査シ其正確ナル事ヲ保證ス

監事 白完爀

●諸公債諸株券現物賣買
迅速確實に御取扱可申候
兼業 諸官衙御用達 製洋服御小賣
京城本町三丁目
大坂野村德七代理店
田中友吉商店
電話九三九 振替(?)

複方 アンチヘブリン
TRADE MARK
感冒解熱特効劑
四季のかぜ、はやりかぜ、ねつ痛一切づゝうの良薬
發賣元 京都市五条柳馬場角 川杉資善堂
藥價 二日分金拾戔 五日分金廿戔
代理店 京城南大門通 新井藥房 電話九百四番 ●十六十八番 振替口座京城十六番

瓦斯コークス販賣
京城黄金町高等演藝館隣
酒井組
電話一一四九番

蒸滊消毒 牛乳
京城青葉町五十番戸
廣養舍 細川牧場
（電話一三六六番）

長崎流
○しるこ
○茶碗むし
○むし壽し
（出前も御好に應じ可申候）
南山町二丁目（南山湯上隣）
松その
（電話一一八五番）

▲月經をつうおしきうびよう・せんぢ●●●
子宮病を全治す
月經閉止三四ヶ月の滯りを通じ其他月經不順より起る子宮病血の道、頭痛、食物進まず、氣分鬱ぎ、逆上強く等の病を根治し、血のめぐりを能くす●
月經不順
二十世紀之新劑
最良新藥
安月丸
一日入錢半 週分廿五錢 一週分壹圓 三週分…
常に月經異動ある人持續とせば由血を下し子宮病に罹る憂ひ更になき良劑也
本舖 大阪心齋橋二丁目 丹平商會本店
支店 東京日本橋區… 丹平商會支店
▲京城以東京市内其他各店に取次す

ゴム風船（ホーヅキ）原料
多年の御引立に報ん爲め當年は特に好季を利用して精撰品の御注文に應可申候代金引換振替は便法に付多少に不拘御用命被仰付度奉懇願候
金印特製扇袋
日本東京市神田區通新石町十五番地
金 西村多吉商店
電話本局二六八九、振替東京一五三九三

本品は血症及貧血病に之に似れし肺病、神經衰弱、殊に腸胃病、病後の回復期等の症、身みなる下痢、すべて對し特効を有す、効
大瓶一圓二十錢 四瓶一圓 小瓶八十錢 送料委細の說明書は無代贈呈す
ボビナイン
飲むだけ血になる
ボビナイン
横濱中央町 台資會社友田商店 振替口座東京一九三八番
朝鮮代理店 京城本町郵便局前
山岸天佑堂
振替口座朝鮮二〇三番 電話三七二番

ゴールドシール印
コンデンスミルク
金圓封爵の洋酒食料品店 乘舖に就て
米國紐育市ボーデン煉乳會社

最上醬油
高
釀造元
仁川港萬石町
高杉醬油釀造場
電話七六五番

義齒術一般
京城明治町一丁目（森、村質店隣）
榊忠司
取次電話六六九番

弊館には夜警の設備有り
眺望の好き事
陸軍指定旅館
鐵道院指定旅館
仁川水產組合指定旅館
第一各保險會社指定旅館なり
仁川海岸
旭屋旅館
電話二五一
御客樣の安全此の上なし

世帶道具は何でも有り升
外に宅ノ酪酒手ヨリ白米、和洋ローソク上白シメ油 高 醬油ハ特約品
右品質上等直段下等大勉強販賣仕候間續々御用命奉願上候
日用雜貨卸問屋
京城本町六丁目
西崎嘉七本店
電話二百十番 電話（ニカ）又ニ 振替貯金口座韓國七番

入院隨意
院長 醫學士 由利弘
副院長 醫學得業士 長尾乙二
慈惠會醫學士 尾上早見
東京醫科大學 撰科專攷 菊池徹
藥劑士 常盤光雄
仁川病院
電話十六番

京城本町二丁目百三十銀行横
野田齒科專門醫院
電話一〇四七番

M.C.C.
土耳古紙卷
エムシーシー
專賣局の定價は百本に付金五圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣
京城、平壤 龜屋―釜山、木浦、群山 高瀨支店

何故に諸君は
蜂印香竄葡萄酒を
飲まざる可からざるか？
新聞品あり 蜂印に注意あれ
然り本酒は健康を助長する無比の滋養强壯劑なればなり現に内外博覽會及び共進會は本酒の效果卓越なる事を保證して最高賞牌二十有四個を授けられたり苟くも衛生に注意し人生の活動場裡に勝利者たらんと欲せらるゝ諸君は須らく本酒を飲まざる可からず
躊躇は常に後悔を伴ふ
今日より直に飲用せよ！
FRAGRANT WINE D. KAMIYA SOLE AGENT R. KONDO
東京日本橋 近藤利兵衛

朝鮮名產
鶴乃箸
○鶴の骨細工種々
○鶴の羽細工種々
○朝鮮土產品種々
製造發賣元 京城本町三丁目 海市商會 電話二五〇 振替朝鮮四八
特約發賣元 京城本町四丁目（電話九五六）日之出商行
特約發賣元 京城本町六丁目（電話二一〇）西崎本店

資本金五百萬圓
神戸海上運送火災保險株式會社
出張所 京城明治町一丁目（電話一五四九）

優等清酒
釀造發賣元
仁川港
吉金酒店
電話七六四番

印刷と紙
諸紙 和洋帳簿 印刷 各種製本
諸官衙御用
播本商店
京城本町六丁目 電話百拾番

資本金五百萬圓
本店 東京日本橋區吳服町
支店派出所（橫濱 天津 釜山 京城）
東京建物株式會社京城派出所
京城旭町二丁目百十五番戸
電話番號一六八一番
營業科目
土地建物抵當貸附
月賦償却建物建築
土地建物賣買紹介

營業科目
和洋紙類
印刷器械
印刷インキ
和洋書籍
[illegible]ブレン
[illegible]
[illegible]
諸官衙御用
發賣販賣
東京ランバーグ商會代理店
東京中外アスファルト[illegible]
東京十代田[illegible]
藤田合名會社
東京[illegible]文[illegible]行[illegible]
東京[illegible]
[illegible]
本社 京城明治町二丁目 電話三
出張所 京城南山[illegible]三一九六
[illegible]

淺田飴
だんぜんせきに若しむ人と常によきおつれのお好伴侶！
東京 大阪 堀内
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九百四番千六十八番 振替口座京城十六番

健胃下服丸（けんいかふくがん）
京城南大門通 新井藥房
電話一〇六八 九〇四番 振替口座韓國十六番

二月中出帆廣告
キ
海州行
天草丸 十日、十四日、十八日、廿二日、廿八日
安泰丸 十二日、十六日、二十日、廿四日、廿八日
濟津 富里 浦屯 串行
三省丸 十日、十二日、十四日、十？
千葉丸 十日、十二日、二十日、廿四日、廿六日
成歡丸 十四日、十六日、十八日、廿日、廿八日
… 二日、廿四日、廿六日、廿八日、廿二日
鎮島行 廿八日
千葉丸 十四日、十六日
成歡丸 九日、十一日
三省丸 十九日、二十一日
仁川本町四丁目
合資會社 秋田商會船舶部